

NHK

# 「歴史探偵」『吉野の桜』

1300年の歴史 日本一：桜の名所吉野の奇跡の復活劇

令和8年（2026）4月8日 放送

今回のNHK「歴史探偵」では、吉野が日本屈指の桜の名所であると同時に、1300年にわたる信仰と歴史が折り重なる特別な地であることを紹介します。

飛鳥時代、修験道の開祖・役行者が桜の木に蔵王権現を刻んだことから、桜は「御神木」として信仰されるようになり、金峯山寺を中心に、人々は祈りを込めて桜を寄進し、やがて山全体が桜で覆われるようになります。

平安末期には歌人・西行が桜を愛し吉野に庵を結び、さらに桃山時代には豊臣秀吉が五千人を従え花見を催し、能「吉野詣」を演じその権力を誇示しました。

しかし明治維新後、新政府の「廃仏毀釈」により金峯山寺は廃寺に追い込まれ、修験道は弾圧され、参拝客も激減します。桜の管理は困難となり、伐採され、朽ちた桜が放置進み吉野の桜は絶滅の危機に瀕しました。

《奇跡の復興》 この危機を救ったのは、明治13年。桜の消滅に危機感を抱いた住民たちが「芳雲社（ほううんしゃ）」を結成し、献木の伝統を復活させました。有志の資金援助を受けながら植樹や山中巡視を行い、懸命に桜を守り抜きました。

さらに昭和34年の伊勢湾台風、昭和57年の台風など、自然災害によって吉野の桜は再び被害を受けましたが、吉野の桜を一括管理する「吉野山保勝会」が組織され、「桜守」と呼ばれる専門家を育成し。土壌改良や植樹を進め、桜の被害は大幅に減少した。

信仰によって守られ、人々の努力によって育てられてきた吉野の桜は、歴史の荒波を乗り越え、現在も約3万本の見事な花を山いっぱい咲かせています。

【番組途中で「ふるさと吉野懐古写真集」（奈良今昔写真WEB蔵）を紹介・下写真】

